



いずみさの昔と今 第338回

「池田谷久吉とその生涯④」 「池田谷久吉と百済寺跡」

秋季企画展「泉佐野の建築家―池田谷久吉とその生涯―」と関連し、今回は「考古学者」池田谷久吉の業績を紹介していきます。

池田谷久吉は以前の号でも紹介したように、復元された岸和田城天守閣をはじめとして、今に残る多くの歴史的作品を手掛けた建築家として著名な人物です。ただ、池田谷久吉は建築家としてだけでなく、古代寺院の研究者、考古学者として全国的にも周知された存在でした。ここでは、たくさんの考古学の業績から枚方市所在の古代寺院「百済寺跡」の発掘調査について見ていきます。

池田谷久吉は大正15年に大阪府を退職し、池田谷建築事務所を開設しますが、事務所の仕事とは別に、昭和4年に大阪府史跡名勝天然記念物調査委員に任命されます。この調査委員に任命されて以降、大阪府内に残る古代寺院の調査に係るようになっていきます。

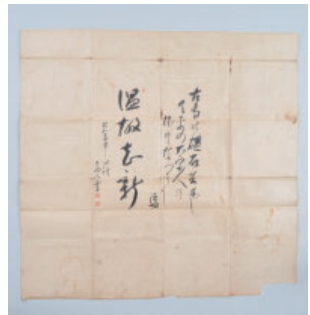
その中のひとつ、昭和7年の秋に約6カ月間行われた百済寺の調査で、池田谷久吉は重要な役割を果たしています。発掘調査成果は調査報告書「大阪府史跡名勝天然記念物調査報告書4」の中で詳細に述べられています。

ますが、報告書の役割分担を見ると「遺跡の実測図は主に池田谷委員、鯛天書記の手になり、「執筆出版等は主として岸本囀託が之にあたった」とあります。実際報告書に掲載された各種図面を見ると、「池田谷委員」の名前が明記されています。報告書では図面作成担当ということで、池田谷久吉の業績が正当に評価されているとは言い難い状況です。しかし、歴史館いずみさの所蔵の池田谷資料を見ると、池田谷久吉が残した仕事の内容には驚かされるものがあり、その調査方法は現在の寺院跡調査の礎となったと評価しても過言ではありません。

では、どのような資料が残されているのでしょうか。大きく分けると①調査前の現況図、②金堂や東西両塔の平面図、礎石やその基礎となる栗石の詳細図などの調査記録、③伽藍配置の復元試案、④研究ノートと写真、論文用の原稿などです。特に注目されるのは、②と③です。②の調査記録を観察すると池田谷久吉は調査の過程で高度な測量技術を用いて図面を作成していることがわかります。高度な測量を用いたこの手法はこれまでの調査ではあまり類を見ることができず、画期的な調査方法です。

この測量技術はおそらく大阪市立大阪工業学校の学生時代に習得したのでしょうか。この手法により、百済寺の伽藍配置を記した正確な全体図を完成させています。さらにこの全体図を利用し伽藍配置の復元を考察しています。復元案は、完成をみることはなかったようですが、この仕事は奈良薬師寺の伽藍配置復元に大きく貢献したとも言われています。なお、③復元試案の図面の裏面には、「温故知新」と読める直筆の墨書きが記されています。池田谷久吉の建築や歴史に対する取り組み姿勢を強く感じさせるものと言えるでしょう。

次回は「池田谷久吉と佐野踊り」について取り上げます。



▲「温故知新」の書（館蔵）

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、毎月最終木曜日（いずれも祝日の場合は開館し、その翌日が休館）
開館時間 午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
入館料 無料

日本遺産・葛城修験文化を巡る⑦ ～行者の滝を含む7つの滝～

「日本遺産」に追加認定された「葛城修験 ― 里人とともに守り伝える修験道はじまりの地」のストーリーを構成する泉佐野市の文化財等を紹介いたします。

問合せ 文化財保護課



七宝瀧寺は、役行者が開いた48の滝が流れる深山、幽境の霊地です。奈良吉野の大峰山より6年早い開山と言われています。犬鳴山で修行し現れた俱利伽羅大龍不動明王を役行者が作った本尊を秘仏としています。平安時代から京の都まで請雨（雨乞い）祈願の霊験が伝わる古刹で、「七宝瀧寺縁起」によると、天長年間（824～834年）の早魃の際には、淳和天皇が「両界の滝」「塔の滝」「弁天の滝」「布引の滝」「固津喜の滝」「千手の滝」「行者の滝」の7滝に降雨を祈ったところ、霊験があったため、7つの滝を7宝に例えて寺号を「七宝瀧寺」とされたと言われています。のちに弘法大師が修行した際に7つの滝に七福神を祀っています。天正期の信長・秀吉の兵火により、室町期の板碑が多くの残るものの、現在は江戸期の再興による姿となっています。大峰山の女人禁制に対し「女人大峰」と呼ばれ、8月下旬のお滝祭りの日には、「行者の滝」で男女問わず誰でも滝行に参加でき、山岳信仰の一部を体験することができます。このように、平安時代から農耕に恵みをもたらす雨乞い習俗が、今も犬鳴山修験道として受け継がれています。